

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772300497		
法人名	医療法人社団 仁嘉会		
事業所名	グループホーム花南会津 1Fユニット		
所在地	福島県南会津郡南会津町大字丹藤字中川原675-6		
自己評価作成日	平成23年7月14日	評価結果市町村受理日	平成23年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成23年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員としての役割を大切に、防災・行事など積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1職員は、利用者の馴染みの関係(病院、美容室・床屋、買い物等)が継続出来るよう同行しながら支援しており、利用者が安心して職員を信頼しながら生活している。

2.利用者・家族の意向に基づき、事業所での看取りが行われている。状態悪化等で事業所で看取りとなった場合でも、医師、看護師の全面的な協力体制等により、ターミナルケアを全職員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の全体会・ケア会で話しをし、理念に添ったケアを心がけ統一している。	今年度初めに、今までの運営理念と介護方針の見直しを行い、職員と話し合いながら、地域密着型サービスの意義を反映させて作成した。理念は毎月、職員会議等で確認をし、共有空間にも掲示しており、職員間で共有されており、実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事(しんごろう等)や避難訓練など参加していただいている。運営推進会議や野菜作りなど協力いただいている。	事業所の行事(しんごろう、避難訓練等)に地域から参加協力が得られ、地域の行事(地区の夏祭り、文化祭、保育所行事等)に利用者と一緒に参加しており、双方向で交流が行われている。また、近所の方から畑作りに積極的に協力が得られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事・運営推進会議・避難訓練など参加いただき、理解を深める努力をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	避難訓練時に反省や課題・ホーム内の改善点を意見交換し、改善に活かしている。	定期的に会議が開催されており、必要に応じて関係機関(消防署等)に参加を依頼し、専門的な意見等も出されている。出された意見はサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月の1回の運営推進会議・に出席していただき意見交換をしている。	運営推進会議に必ず出席があり、事業所の実情は理解が得られている。また、行政から入居相談等もあり、協力関係が築かれている。今年度は、行政から働きかけがあり、事業所でミニトマトを栽培し、出荷を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人がこころがけている。玄関は夜間以外開放している。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、事業所内勉強会等を行い、職員間で確認しながら適切な支援に努めている。日中、玄関の施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人がこころがけている。入居者様の変化をちいさなことでも見逃さず申し送りをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協担当職員と定期的に連絡をとっている。必要時相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または必要時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に外部評価を実施している。	日頃から利用者の話を聞き、表情等から思い等を判断している。家族来訪時には、一緒に話しをし、意向等聞き取っている。また、外部評価の家族アンケートで明らかになった家族の意見等も取り入れ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会などで話しあっている。	管理者は、職員会議や日頃の会話等から職員の意見等を聞き取っており、職員の勤務時間の変更やマニュアルの見直し等法人に稟議書を提出し、速やかに改善に努めている。定期的に法人から事業所へ訪問があり、管理者は意見等伝えることが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会などで話しあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・経験に合わせ研修等対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し情報交換をしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なことがないか要望をうかがっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅ケアマネと連携し、実調時によくお話をうかがう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調時、家族の希望や本人の状態を確認しつつ支援内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに食事を作り、一緒に食事を摂り、対等な関係をきづく努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をお伝えし、利用者様のよりよい暮らしのため協力して、ケアを考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への継続受診や、買物・美容室など外出している。	事業所では、利用者の今までの関わりを継続し、病院、美容室・床屋、買い物等に利用者と一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車イスを押して下さったり、お茶や配膳など出来る方が出来ない方へ手を貸して下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば話しをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	Eシートを活用し、ニーズの把握につとめ、困難時はカンファレンスで意見をだしあっている。	利用者は、日頃の関わりの中で把握し、家族は、面会時に意向等聞き取っている。把握した利用者・家族の意向は、センター方式の用紙に記入し、職員間で話し合いながら、利用者本位の介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のかたのお話をよく伺い、若い頃のお話など教えていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	調理・食器拭き等お一人お一人、出来る事の支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一回見直し、変化時は随時ケアカンファを行っている。面会時できるだけ、様子をお伝えしケアプランに反映できるようにしている。	利用者の意向等を反映し、職員間で検討しながら介護計画を作成している。定期的にモニタリングし、結果を基に計画を見直し、また、利用者の状態変化等の際は、速やかに計画を変更し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録時ケアプランのチェックを行い、気づきはケアカンファなどで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時など洗濯など協力している。御家族の希望で、居室に宿泊していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊り・祇園祭・保育園の運動会などに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・本人の希望で、担当主治医を決め、往診など柔軟に対応している。	利用者の今までのかかりつけ医に職員が同行し、受診の支援をしている。通院できない利用者は、往診で対応している。夜間帯の緊急時は、主治医に電話で指示を仰ぎ、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のバイタルなど普段から情報を共有し、相談や処置・受診など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族・担当医と話し合いをもち、早期退院などにつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を踏んで、看取りなどの話し合いを重ね、家族の想いを尊重している。主治医・訪問・社協・ご家族と連携している。	入居時に利用者・家族に事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者の状態に応じてその都度家族・主治医・訪問看護・職員とで話し合いを重ね、職員は勉強会で対応方法を学びながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加し、知識を身につけたり、訪問看護師に指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をおこない、マニュアルなど改善している。運営推進会議や避難訓練に地域の方に参加頂き、協力していただいている。	火災想定避難訓練は、消防署の指導のもとに隣家・区長・民生委員等の協力を得て行っている。また、毎月シュミレーションも実施している。発電機、燃料、ストーブ、水、食料等を非常用備蓄として備えている。	今年度、大震災発生後に地震のマニュアル等を現状に合わせて作り直した。新しいマニュアルを基に火災以外の災害想定訓練もして欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ずつ入浴していただき、視線を気にせず着替えなどしていただいている。	プライバシー確保の研修会を実施し、日頃の会話やトイレ誘導等で、話しかけや言葉づかに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に支援している。買物・入浴など希望にそっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に支援している。季節の衣類を着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	毎食一緒に調理し、会話をしながら食事している。	利用者の好みに応じて献立を作り、利用者の能力に応じて調理、配膳・下膳から後片付けまで行ってもらっている。食事は職員と一緒に楽しい雰囲気の中で会話をしながら、摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。個別に支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせ声をかけ誘導などケアしている。	利用者の排泄チェック表を記録し、プライバシーに配慮した声かけで一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導をする等、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や・水分など個別に対応している。体操やレクを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望により入浴を行っている。	利用者の希望を聞きながら、曜日・時間を決め、ゆずや入浴剤を使い、工夫して入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方や散歩など工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の内容がわかるようにファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できること・やりたいことを支援している(刺し子塗り絵・調理)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食にでかけたり、保育園へでかけたり支援している。	事業所周辺の散歩や花見、外食、保育園での夏祭り・定期的な交流会、買い物等の支援を一人ひとりの状況に合わせて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は支援し、個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもかけたり、取り次いだりしている。手紙も希望に随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に季節の写真を飾っていただいている。日付がわかるようにカレンダーを工夫している。	地域の方の差し入れの花や花壇からの花等が事業所内に飾られている。居間には文化祭での入賞作品、手芸品・写真等が飾られ、利用者はソファや畳スペースでゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・談話室など好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	個別に対応している。好きなように飾っていただいている。個人の毛布・TVなど持ち込みして使用している。	テレビ・ハンガーラック等の持ち込みや、写真などを飾り付け、ベット・家具類の配置に配慮しながら思い思いの居室作りに心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、衣類の整理など個別に支援している		